

鳥のヒナに関するお問い合わせについて

1. お願い

○そのままにしておいて、飛び立つのをそっと見守ってください。

(市が保護することによって、ヒナを親鳥から引き離すこととなってしまいます。特にカラスは親鳥に攻撃される可能性があるため、ヒナに近寄らないように注意)

○自然界のことは自然にまかせ、人間が手を出すことは極力避けるべきであることをご理解ください。

2. 問い合わせへの回答

問1 ヒナを見つけたときはどうしたらよいのでしょうか？

A 野鳥のヒナの多くは、卵からかえって羽が生えそろって直ぐに巣立つので、巣から飛び出す段階ではうまく飛べずに落ちるものもいます。そのようなヒナでも、多くは親鳥が食べ物を運んだり、安全な場所へ導いたりして育てている最中ですので、そっと見守りましょう。

巣立ち直後のヒナはあまり動きません。親鳥は人がヒナの近くにいると警戒してやって来られません。すぐにその場を立ち去りましょう。ヒナを迷子だと思って拾ってしまうと、親鳥から引き離してしまうことになりかねません(親鳥が戻らずにヒナが死んでしまっても、自然界はそうにして成り立っているものですので、やむを得ないこととご理解ください)。

※ヒナの羽がそろっていない場合

もし、羽が生えそろっていないようなヒナが落ちていた場合は、巣立ち前に巣から落ちたのかも知れません。近くに巣があるはずなので、そこに戻してやることで助けられる可能性があります。ただし、ヒナにさわった場合は、手袋をするなどして、作業終了後は手洗い・うがいを実施してください(親鳥が匂いを気にすることはあまりないと考えられます)。

※ケガをしている場合

ケガも、ヒナが自然界でたくましく生きていくための試練の一つです。ケガが治ることも考えられますので、自然のままにそっとしておいてください(ヒナが死んでしまっても、自然界はそうにして成り立っているものですので、やむを得ないこととご理解ください)。

希少種であると自分で判断できる場合は、長野県地方振興局(☎ 233-5151)へ相談してください。

なお、希少種でないもの及び農作物に被害を与える次の鳥については、治療を行わないので、自然のままにそっとしておいてください。

スズメ類、カラス類、カワウ、ゴイサギ、カルガモ、キジバト、ドバト
ヒヨドリ、ムクドリ

問2 ネコやカラスに食べられないでしょうか？

- A どうしても心配であれば、近くの木の枝先や茂みの中など、ネコやカラスが近寄れないところに置いてあげましょう。親鳥は姿が見えなくても、ヒナの声で気づくことができるでしょう。ただし、ヒナにさわるときは、手袋をするなどして作業終了後は手洗い・うがいを実施してください。(結果として食べられてしまっても、弱肉強食の自然界のことであるので、やむを得ないこととご理解ください。)

問3 巣が落ちているときはどうしたらよいのでしょうか？

- A 枝に巣をつくっている場合は、周りの枝ごと元の近くに置いてください。
ツバメの場合は、カップ麺の容器やザルに巣材ごと入れ、ガムテープで固定したり、天井からぶら下げてください。

問4 人が野鳥のヒナを育てることはできないのでしょうか？

- A 私たち人間はヒナに飛び方や、食べもの、何が自分にとって危険なのか教えられません。自然の中で自立していけるように育てるとするのはとても難しいことなのです。ヒナが自然の中で自立することができるようにそっと見守りましょう(ヒナが死んでしまっても、自然界はそのようにして成り立っているものですので、やむを得ないこととご理解ください)。
また、許可なく野鳥を飼うことは法律で禁止されています。

問5 ヒナが死んでしまったらどうしたらよいのでしょうか？(ヒナの死骸を発見したけどどうしたらよいのでしょうか？)

- A 地中に埋設するか、可燃ゴミに出してください。なお、死亡したヒナに触れる際は、安全対策として、「箸や手袋・ビニール袋等を使用して直接触らないよう注意し、作業終了後は手洗い・うがいを実施してください。

問6 ヒナはどの程度で巣立ちますか？

- A スズメでは5個くらい卵を生み、かえったヒナは約2週間で巣立ち、その後1週間くらいを親子で過ごしてからひとり立ちし、親鳥はまた卵を産むというサイクルを、春から夏にかけて繰り返すようです。なお、巣立ちまでの期間は、メジロやヒヨドリでは10日ほどしかなく、シジュウカラ・ツバメ・ムクドリなどは3週間ほどかかるものもあります。

この文書は、長野県ホームページ、日本鳥類保護連盟及び日本野鳥の会ホームページを参考にして作成したものです。(一部加筆等あり)